

平成29年度教育目標・重点行動計画 鈴鹿中等教育学校／鈴鹿中学校・高等学校

建学の精神「誠実で信頼される人に」

学園の標榜「すべては生徒のために～生徒が輝く学校づくりをめざして」

平成29年度重点目標及び行動計画

1. 教科指導力を向上する取組を行います。
2. キャリア教育を充実します。
3. 生活指導を徹底します。
4. 英語の4技能を重視し強化します。
5. 生徒の主体的な学びや活躍する機会を充実します。

1 教科指導力を向上する取組を行います。

- ① 授業力向上プロジェクト設置と推進 授業公開（教員間）
- ② 生徒による授業アンケートの実施（年2回）
- ③ 電子黒板を活用しICT教育の推進。
- ④ アクティブラーニング型授業の推進（平成30年度研究大会計画）



2 キャリア教育を充実します。

- ① 6年間を通じたキャリア教育の体系化
- ② 医系進学希望者養成プログラムの充実
- ③ 最難関国立大学突破プログラムの充実（東大ツアーや実施他）



3 生活指導を徹底します。

- ① 「生徒心得」を生徒が主体的に守る意識の醸成と指導の徹底
- ② いじめを正しく理解し、いじめをしない・絶対許さない意識の醸成と行動力を持つ（教職員・生徒対象の研修実施）
- ③ 豊かな人間性を育むにふさわしい、快適で安全な環境の保持や清掃活動の徹底

4 英語の4技能を重視し強化します。

- ① ネイティブ英語教員の採用・Osaka English Village 訪問（1年）
• English Camp（3年希）・オーストラリア語学研修（4年希）
• オンライン英会話（1年・他は希）などによる英語を話す環境づくり
- ② Berlitz(ベルリツ)と提携し、発音指導の徹底（1年）
- ③ GTEC for Studentsの実施（2～6年）
- ④ 実用英語検定等を奨励し、資格取得者数の増加（希は希望者対象）

5 生徒の主体的な学びや活躍する機会を充実します。

- ① 情報メディア教育センターの積極的活用による発表力向上
- ② 自ら考えたテーマを1年間かけて探求する課題研究（3年）
- ③ 学校生活向上のため生徒の声を学校に伝えるシステムづくり

6 その他

- ① 多目的スペース（本館職員室隣に自習・相談・質問等）の新設
- ② 防災意識の向上。防災研修会・避難訓練の実施
- ③ 軽食を販売し、飲食できるイートインコーナーの検討（学園）



教育実践目標

1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
2. 自主・自律の校風づくりをします
3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

学年目標

1年「向上心を大切にする」

- ・医進・選抜コース選抜試験の受験100%
- ・英語検定試験の全員受験（受験率100%）

2年「手帳の有効活用による、家庭学習時間を増やす」

- ・平日・休日ともに前年比30分増
- ・手帳の活用、面談の充実

3年「自ら課題を見つけ、探究・研究する力を養う」

- ・TS（テーマスタディ：課題研究）の活用
(自らの進路及び学問分野・領域発見の契機にする)
- ・日常の学びを通じ、基礎学力と自ら学ぶ姿勢の獲得
- ・第2回学力推移調査（11月）で3教科過去最高（55P）

4年「知的好奇心を喚起する」

- ・TSを受けての興味関心の所在の気づきおよび学問・研究領域の発見、学びたい学問の選択
- ・個人面談、夢ナビプログラムや大学オープンキャンパス参加、科目選択で進路への意識づけ

5年「明確な進路意識の確立と、

その実現に向けた学力・人間性を養成する」

- ・面談、進路講話を通した進路目標の確立
- ・学校行事、校外活動を通して「自己」を語ることのできる経験を蓄え、学年末に全員が第一志望に向けた志願理由書の作成
- ・自己の進路実現に向けた学力の養成

6年「学間に王道なし」「七転八起」

- ・鈴中生の誇りをもって、最後まで諦めず、第一志望校突破

各教科の目標

ホームページに掲載していますのでご覧ください。

学校法人 鈴鹿享栄学園
鈴鹿中等教育学校

学校法人 鈴鹿享栄学園
鈴鹿中学校・高等学校

平成29年度教育目標・重点行動計画 自己評価

I 校務分掌等

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない

平成30年3月

①授業力向上プロジェクト設置と推進 授業公開(教員間) ②生徒による授業アンケートの実施(年2回) ③電子黒板を活用しICT教育の推進 ④アクティブラーニング型授業の推進(平成30年度研究大会計画)	B 学年間、教科間で授業公開を行い課題を共有し、改善を図っている。今後も学年・教科間の推進を図り、学校全体の動きとしていく。 A 生徒の声を反映させ、教師の気づきとし授業改善するために、生徒による授業アンケートを実施(1学期・2学期)した。 B 昨年度比、電子黒板の使用回数増。利用方法が改善されてきた。 C 中等部を中心に推進中である。高等部においてはアクティブ型授業に取り組んでいるが、依然として学年・教科による差がある。
2 キャリア教育を充実します。 ①6年間を通じたキャリア教育の体系化 ②医系進学希望者養成プログラムの充実 ③最難関国立大学突破プログラムの充実(東大ツアーや実施他)	B 進路ノート活用、模試編成の再構築等、6年の成長過程に応じた特別プログラムの実施。三重大3週連続講義(医・人文・生資学部)実施 A 医学科志望生徒に限らず広範な生徒の学問領域発見および生命倫理について考える機会と位置づけ6回実施。 B 言語哲学(京大11/7)、東大ツアーやセンター入試研究会(12/18)など実施。
3 生活指導を徹底します。 ①「生徒心得」を生徒が主体的に守る意識の醸成と指導の徹底 ②いじめを正しく理解し、いじめをしない・絶対許さない意識の醸成と行動力をつける。 ③豊かな人間性を育むにふさわしい、快適で安全な環境の保持や清掃活動徹底	C 生徒心得に関しては、地道に指導や声掛けを行っている。 B 学年、スクールカウンセラーと連携し、迅速な対応、問題解決を実行している。人権アンケート(生徒)、研修会(教職員)の実施。保護者との連携を重視した。 B 本館の改修。掲示物のルール化、清掃用具の補充・完備、西館1・2年縦割り清掃の実施。美化維持のための企画健闘中。

<p>4 英語の4技能を重視し強化します。</p> <p>①ネイティブ英語教員の採用・Osaka English Village訪問(1年)・English Training(3年希)・オーストラリア語学研修(4年希)・オンライン英会話(1年・他は希)などによる英語を話す環境づくり</p> <p>②Berlitz(ベルリツ)と提携し、発音指導の徹底(1年)</p> <p>③GTEC for Studentsの実施(2~6年)</p> <p>④実用英語検定等を奨励し、資格取得者数の増加 (希は希望者対象)</p>	<p>A すべて実施。1年生以外希望者対象のオンライン英会話、3年生の English Trainingは3月26~28日予定。 ネイティブ教員がいることで、学校生活で英語を口にする機会が増えた他、様々な取組で複数のネイティブに接し、4技能向上。</p> <p>A 発音を重点的に学ぶことで発音を意識する生徒が増えた。</p> <p>A 2・3年生は前回(11月)実施より各53点向上 4~6年生は、それぞれ全国平均より20点程度上回る。</p> <p>B 資格取得者第1回 61名、第2回 66名、第3回 集約中(1次合108 高等部は16名から47名で31名増。第1回、資格取得者61名。</p>
<p>5 生徒の主体的な学びや活動する機会を充実します。</p> <p>①情報メディアセンターの積極的活用による発表力向上</p> <p>②自ら考えたテーマを1年間かけて探究する課題探究(3年)</p> <p>③学校生活向上のため生徒の声を学校に伝えるためのシステムづくり</p>	<p>B 中等部を中心に、主として調べ学習で積極的に活用している。</p> <p>A 鈴青祭2日目に、情報教育メディアセンターで、全員のテーマ、仮説の設定・得られる成果をプレゼン。今後、検証・まとめを行う。</p> <p>B 生徒会からの要望(グラウンドの充実)について学校と話し合った。生徒会執行部と学校の担当者との真摯な意見交換ができた。</p>
<p>6 その他</p> <p>①多目的スペース(本館職員室隣に自習・相談・質問等)の新設</p> <p>②防災意識の向上。防災研修会・避難訓練の実施</p> <p>③軽食を販売し、飲食できるイートインコーナーの検討(学園)</p>	<p>A 職員室横という立地の良さで、生徒の自習、教科の質問、担任との面談、教育相談など様々な活用が終日活発に行われている。</p> <p>B 防災ノートを活用し、学校や登下校中の避難・防災対策の学習を行い防災意識の向上を図った。生徒対象のAED講習、教職員対象の防災ワークショップを行った。</p> <p>A イートインコーナーの4月開設を決定し、3月末工事完成予定。業者を決定し、保護者会役員会のメンバーを対象に試食会実施。</p>

II 学年目標

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない

平成30年3月15日

<p>1年 「向上心を大切にする」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医進・選抜コース選抜試験の受験100% ・英語検定試験の全員受験(受験率100%) 	<p>C 成績個票に医進・選抜コースへの移動指標を載せ、奨励したが、受験率は67%であった。校外研修や総学の時間にクラスを超えたグループ作りをし刺激を与えた。</p> <p>C 6月受験者数13名、受験率11.0%。10月受験者数35名、受験率29.4%。1月受験者〇名、受験率〇%。</p>
<p>2年 「手帳の有効活用による、家庭学習時間を増やす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日・休日ともに前年比30分増 ・手帳の活用、面談の充実 	<p>C 平日7分、休日5分しか増加しなかった。各教科で、課題や宿題を具現化する必要あり。</p> <p>C 手帳を活用している生徒が固定化している。面談は積極的に推進した。</p>
<p>3年 「自ら課題を見つけ、探究・研究する力を養う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TS(テーマスタディ:課題研究)の活用 ・日常の学びを通じ、基礎学力と自ら学ぶ姿勢の獲得 ・第2回学力推移調査(11月)にて3教科合計過去最高を目指す。 	<p>A 鈴青祭文化の部で、全員が研究テーマおよび仮説の設定をパネルプレゼン。医系プログラムや三重大学連続講義の前に講師にプレゼンアドバイスを頂いた。それを全員で共有したことが成果。3月19日発表。</p> <p>B 授業に向かう姿勢を徹底中。放課後の補習とBCの追指導実施。学ぶ集団つくりに取り組んだ。今後も継続する。</p> <p>TSに合わせて、外部の各種コンクールへの参加奨励に生徒が応じる。</p> <p>B 上位層の確保はできた。ただし、平均値は目標に達していないことから、生徒が自ら課題に取り組むよう仕組みづくりをしていきたい。</p>

<p>4年 「知的好奇心を喚起する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TSを受けての興味関心の所在の気づきおよび学問・研究領域の発見、学びたい学問の選択 ・個人面談、夢ナビプログラムや大学オープンキャンパス参加、科目選択への意識づけ 	<p>B TSから学問・領域に対する興味・関心を掘り下げ、夢ナビプログラムや夏休みの大学オープンキャンパスにほぼ全員参加した。そのうえで、大学、学部・学科調べを実施し、2学期末の科目選択に向けて個人面談を複数回行い、学習への意識つけにつなげた。</p>
<p>5年 「明確な進路意識の確立とその実現に向けた学力・人間性を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談、進路講話を通した進路目標の確立、 ・学校行事、校外活動を通した「自己」を語ることのできる経験を蓄え、学年末に全員が第一志望に向けた志願理由書の作成 ・自己の進路実現に向けた学力の養成 	<p>B 面談、進路講話を実施し、一人ひとり明確な進路目標を確立しつつB オープンキャンパスの参加、鈴青祭の体育の部・文化の部で、中心的役割を果たした。このことを自己の貴重な経験として活かす。B 第一志望校を目指した学力養成に係る指導、面談を継続する。</p>
<p>6年 「学間に王道なし」「七転八起」 ～鈴中生の誇りをもって～</p>	<p>B 夏休み以降、学力上位層がよく健闘している。大学別模試を精力的に受験している中位層のモチベーションを高く保つよう指導。私立大学受験以降弱気になっている様子も見られたが、国公立前に叱咤激励した。最後の頑張りを信じている。</p>

平成29年度 保護者アンケート [12月実施]			そう思う	やや そう思う	ややそ う思わない	そ う思わない
1 教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐくまれている		48.4 %	44.2 %	5.8 %	1.6 %
2 学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている		49.4 %	41.4 %	6.8 %	2.4 %
3 進路指導	学年に応じた進路指導が充実している		56.0 %	35.2 %	6.4 %	2.4 %
4 生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている		41.3 %	48.4 %	6.7 %	3.6 %
5	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる		56.0 %	35.6 %	7.2 %	1.2 %
6 学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い		50.4 %	39.2 %	8.4 %	2.0 %
7	保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる		56.9 %	36.3 %	5.2 %	1.6 %
8 教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である		58.0 %	35.2 %	5.2 %	1.6 %
9 家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている		43.2 %	47.6 %	8.0 %	1.2 %
10	PTA活動が活発である		35.2 %	52.8 %	10.4 %	1.6 %
11 満足度	子どもを入学させてよかったです		66.5 %	26.2 %	5.2 %	2.0 %
お気づきの点があ れば、 記入してください。	・ウインドブレーカーでは寒すぎます。コートを作るか、自前のコートを許可してください。 ・台風などの際の決定が遅い。安全面を最優先した判断をもっと早くしてほしい。 ・休日に図書館が休みなのは、とても残念です。工夫して開けていただけないでしょうか？子供の学習場所に最適なのにもったいないです。					